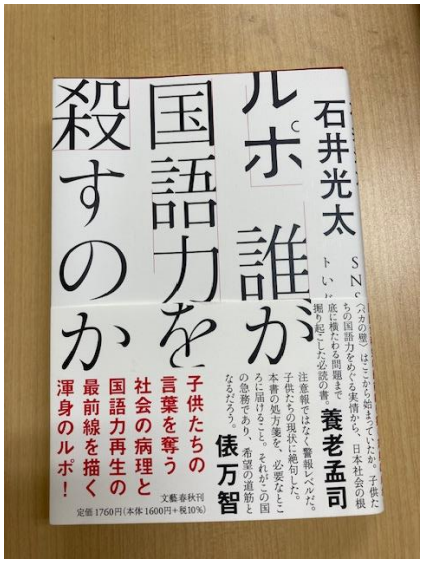
麦笛（第 54 号　令和 5 年 10. 11 月）

≪国語力≫

先日、この本の石井光太さんの講演に行きました。その中で、次のような中学生の会話がありました。

A「あのゲームくそやばかった」B「ああえぐかった」
C「おまえ台パンしすぎ」A「店員がん見だから」
B「くそうざ」C「おまえがうざ」B「は、死ねよ」
C「おまえが死ね」



今の子どもたちの会話やラインは、このように語彙が少なく短い言葉で表現することが多いため、相手に誤解を与えやすく、トラブルに発展してしまうようです。
「あのゲーム展開が早くておもしろかったね」「興奮して台をたたいて店員さんみていたよね」「周りの人に迷惑かけたかな」「これからやめよう」というように話していれば、トラブルは防ぐことができたかもしれません。

子どもたちはコロナ禍で人との交流もできず、マスク生活の上、直接会話をすることができなかった期間が何年も続き、携帯の使用時間もさらに長くなったように思います。

こむぎ保育園では、職員が豊かなことばがけを心掛け、絵本を読み、歌を歌い、食育や行事を通して、心がゆさぶられるような「実体験」をたくさんすることで、子どもたちの豊かな感性に働きかけ、表現する力「国語力」を高めていきたいと思います。

季節のテーブル係（担当：東　山田　涌井　岩堀　）

毎年恒例のくじら組さんの染め物体験を行いました！ご家庭から集めて頂いた玉ねぎの皮を煮出していくと水がどんどん茶色っぽくなっていきます。その様子を見ると「すごい！」「色が変わってる！」と大興奮のくじら組さん。その後は真剣な表情で作りたい柄になるよう、布に輪ゴムを付けました。染め汁に布を自分たちで入れ、色がつくのを楽しみに待つお子様たち！
作品はプレイデーのよさこいではちまきとして使用します。ぜひ楽しみにしていてください！
ご協力ありがとうございました。